

保護者・生徒用

# 愛ことば

～安倉中 愛～

宝塚市立安倉中学校  
校長だより  
2024(令和6)年  
11月5日(火)  
第15号

今週6水トイやる発表会 7木参観日  
8金小学生オープンスクール 1週間大変です

## 祝 安倉中学校創立記念日その2 ～全校集会で伝えたかったこと～

●安倉祭に合わせて美術部が3年越しで完成させたものがあります。<sup>さっぷうけい</sup>殺風景だった  
<sup>きかいしつ</sup>機械室の壁面に描かれた壁画です。<sup>へきめん</sup><sup>えが</sup><sup>へきが</sup>

●これは3部作となっており、校歌「友よ」の1番～3番の歌詞をモチーフにして、R4年度が1番の歌詞「光に向かって」、R5年度が2番の歌詞「嵐に向かって」、そしてR6年度の今年が3番の歌詞「未来に向かって」を描いたものでした。

●今回の全校集会では、美術部の3年生に<sup>とうだん</sup>登壇してもらい、それぞれの絵に込められた思いを<sup>かいせつ</sup>解説をしていただきました。



ARASHI NI  
MUKATTEZ  
2023  
Art club

HIKARI NI  
MUKATTE 1  
2022  
Art club





## 校旗樹立・校歌制定発表会

校旗にしる校歌にしるともに学校のシンボルである。ときには励ましを与えられ、ときには慰めを得、いつまでも心の奥深く息づいているものである。  
安倉中学校創立の年に、校旗を樹立し、校歌を制定できたことを心から喜ぶ。

### ● 校旗について

その中心となる校章は、安倉高塚古墳の出土品である古代鏡の紋様からとった。長尾山系の薩武庫川に臨む雨米谷から安倉にいたるこの土地で、私たちの先祖が、長い年月の間天災や洪水に耐え苦難を乗り越えて、土地を開き生活を築いてきたことに遠く思いをいたし、その文化を受け継ぎさらに発展させていく決意をこめて選んだものである。

鏡は、世の中のいろいろなものを正しく映します。鏡は、おのれの姿を映して誤りを正す働きをするとともに、おのれの努力を映している姿を映す。この校章の前に立って、私たちは、心を磨き身体を鍛え、自分の行為を映しだして恥ずかしくない人間に成長することを誓うものである。さらに、鏡は私たちの前途を照らします。『安倉中学校で学ぶ生徒の未来に光あれ』この願いを校章にこめて

ているのである。

また、紋様の「中」は「安」の字の、「冫」は「倉」の字のデザインでもある。

### ● 校歌について

藤本 義一氏は、関西の人情をえさきだしては他に類を見ない直木賞作家であるが、同時に著書「満点ママ・減点ママ」に向われるように独自の教育観のうえに立って、現代の教育に日本の将来を託し、生徒・教師・学校・親に対してその充実と向上を強く望んでおられる。

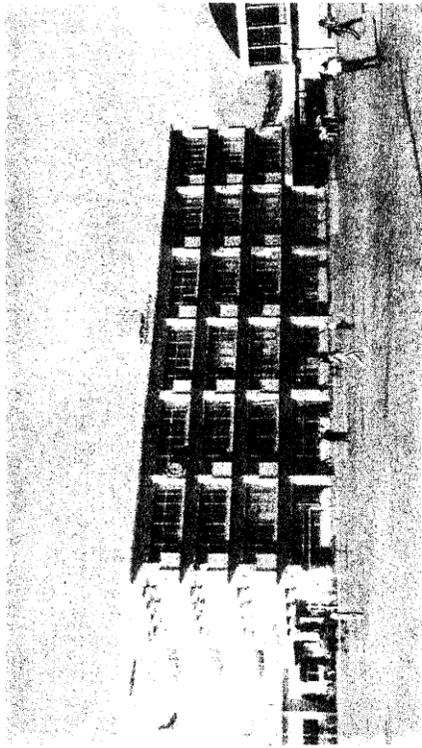
私たちは校章にこめた願いを歌いあげ校歌の制定を願った。宝塚に深いかわりをもち、宝塚を愛しておられる氏は、私たちの意図を了とせられ快く作詞を受け合ってくださいました。

歌詞の最初の章は、遠い先祖からの歴史をふまえ伝統を受け継いで進む生徒の歩みを、次章は、現にふりかかるとの苦しさや乗り越え何事にも全力を注ぐ生徒の姿を、終章は、まゆを上げ胸を張り未来に向って力強く生き抜き伸びゆく生徒の誓いを、心ゆくまで歌いあげたものである。同時に氏は、生徒一人ひとりの成長はいうまでもなく、特に、生徒どうしが仲間と語らい、力を合わせ、励まし合って、共に成長していくよう願いをこめて「友よ」と題していただきました。

雨 安雄氏は、いつの時代においても常に文化の担い手であった庶民の哀歌とあたたかさ、明るさ、しんの強さをメロディーに乗せて表現するユニークな作曲家である。歌詞にこめられた藤本氏の心を、みごとにあらわしてくださっている。

明るく始まるメロディーは、余韻をこめながら青空に向けて生徒の立ち上りを呼びかける。続いて深く自らをふりかえり、大地に足を踏みしめて、力強く歩む姿が心にしみとおる。一転、友と手をとり、頭をあげ明るく希望に満ちて進む足どり軽やかさと輝かしい未来を示すように、曲は終末に回って伸びやかに上りがっている。

もしすれば、校歌にありがちな荘重さ一色でなく、落ち着きを基底にしたながらも、若さと明るさにあふれた現代の学校にふさわしい曲を作っていたら。



1978年11月14日(火)